

報告番号	※	第	号
------	---	---	---

主 論 文 の 要 旨

論文題目	現代都市部における産育をめぐる習俗と信仰の研究－愛知県名古屋市の事例を中心に－
氏 名	MUKHERJEE Hiya

論 文 内 容 の 要 旨

出産と産育に関わる習俗と儀礼の研究は、「人生儀礼」研究の一環として日本民俗学、文化人類学の分野で盛んにおこなわれてきた。2000年以降、出産に対する研究関心が高まる傾向にあり、現代医療を視野に入れた研究が登場する一方、過去の産育文化に対する関心も高まり、各地域の事例報告も着実に増えつつある。

本論文は、近年のこうした研究動向をふまえつつ、病院出産が当たり前となっている都市部における出産に関わる習俗と儀礼の現状を明らかにするとともに、聞き取り調査および質問票を用いた調査により、出産する母親、産育儀礼に関係する神社仏閣の関係者が出産と産育の現状と変化をどのようにとらえているのかを検討するものである。具体的には、名古屋市の事例をもとに、安産祈願の実践内容、とくに腹帯祝いの習慣、安産祈願と神社仏閣の関係、里帰り出産の慣行、出産をめぐる禁忌、出産と「穢れ」観、出産と産育に関する知識の入手先、これらの時代的変遷といった項目の調査研究をつうじて、日本の出産と産育に関わる習俗と儀礼の研究に新たな資料と知見をもたらすことを目的とする。調査研究の手法としては、直接観察、聞き取り調査、質問票を用いた調査を併用した。

本論文は、序章を含む全 10 章で構成される。まず序章では、先行研究の検討と問題の所在、本論の目的、本論文が依拠する研究方法、研究課題、構成などを詳細に論じた。続く第 1 章では、主に調査対象地域の概要、調査期間、調査の方法を述べるとともに、安産祈願、腹帯祝い、里帰り出産、安産のお礼参り、初宮参りなどの習慣について概観した。第 2 章では、愛知県名古屋市の安産祈願に関連する神社仏閣、具体的には塩竈神社、伊奴神社、熱田神宮、興正寺の事例を中心に、それぞれの神社仏閣で安産祈願やそれにまつわる多様な習慣の実態と、それらにみられる特徴、関連する伝承、安産祈願先として人気を集める理由などについて論じた。

第 3 章では、妊婦にとって縁起の良い日とされる「戌の日」に塩竈神社と興正寺を訪れた妊婦の祈願者に対して実施した質問票調査の結果および、妊婦の語りから得ら

れた安産祈願やそれにまつわる他の習慣、腹帯祝いの習俗、里帰り出産の習俗、出産前後の民間信仰や禁忌の現状に関する知見を報告した。第4章では、名古屋市の各区にある多様な地域子育て支援拠点で実施した質問票調査を通して、訪問した母親たち（N=747）の語りから安産祈願、妊娠中のお祝い膳、出産前後の里帰り出産の習俗、安産のお守り、腹帯祝いの習俗などを詳細に記述した。

第5章では、前章の質問票調査の結果をふまえつつ、名古屋市地域子育て支援拠点において61人の母親を対象とした聞き取り調査を実施し、現在の母親たちが出産に関連する諸習俗についてどのように捉えているのか、また彼女たちがなぜ伝統的な晒しの代わりに現代風の多種多様な腹帯の形態の種類を選ぶようになっているのか、また安産祈願の重要性についてどのような意識をもち、里帰り出産にみいだす意義について論じた。第6章では、第4章および第5章において提示した資料にもとづいて、出産前後の産育儀礼や習慣に関する多様な民間信仰や伝承の現状を検討した。

第7章では、質問票調査と聞き取り調査から得られた資料にもとづいて、母親たちの視点から妊娠中・産後の体験、妊娠中の禁忌、日常行動、飲食物、宗教的な信仰に関わる禁忌、それらの禁忌に関する情報の入手先などについて、とくに、最近情報の入手先として有力になっているインターネットサイトの記事、主婦の友社が季刊発行しているマタニティ雑誌の『プレモ』の記事などに言及しながら論じた。第8章では、これまでの記述をふまえた総合的な考察をおこない、安産祈願の実践内容、とくに腹帯祝いの習慣、安産祈願と神社・仏閣の関係、里帰り出産の慣行、出産をめぐる禁忌、出産と「穢れ」観、出産と産育に関する知識の入手先、出産と産育をめぐる習俗と民間信仰の時代的変遷などに関して論じた。

終章において、全体の結論としては、時代の変化とともに病院出産が一般的となった今でも、妊婦たちは従来どおり、胎児の安産を願って縁起の良い日とされる「戌の日」に神社・仏閣に参拝しており、妊娠の五ヶ月目になると腹帯を締める習俗も継承されていること、ただし、妊婦にとってそれらの意味内容は現代医療の観点から重視されるものとなっていること、さらに安産祈願先を選ぶ場合、地域の氏神社ではなく、むしろインターネットや雑誌、口コミなどから情報を入手する傾向にあること、腹帯の形態が伝統的な晒しより多種多様な色彩の、機能上優れた現代風の腹帯を優先する傾向があることを明らかにした。また、里帰り出産の習俗もおおむね変わりなく実践されている一方で、実家の実母に自分の家に滞在してもらい、家事全般や子育ての世話を依頼する事例も増えつつあることを指摘した。妊娠中の禁忌に関しては、医師による助言指導などの影響により、科学的な根拠にもとづいた行動をとる一方、かつての民俗知識の類は妊婦の意識上はほとんど失われていることも明らかになった。

以上の記述と考察をふまえ、最後に本論文の成果、今後の課題と展望を人生儀礼研究のなかに位置づけて提示した。